

「法人契約を主体にしたことで、良質な客が多い」と話す加々美社長



クレスト運輸代行
(山梨・笛吹市)

運輸代行 / フロント

ハロウク

22

元気なあいさつ お客快適に

GPS配車システム開発も

クレスト(山梨県笛吹市、加々美守社長)の運輸代行事業部は、従業員にあいさつを徹底させ、

利用者に快適なサービスを提供している。1996年開業。随伴車を10台保有し、従業員数40人。

「あつしくお願いします」。元気が声で迎える。不機嫌なお客が乗ることだってある。きちんとしたあいさつで気分を取り直してもらえればと、顧客満足を高める加々美社長。安全面では、ドアサービスの際、車の周囲を回り、縁石や障害物がないかを確認する。車庫出し入れ時の事故防止につなげている。

料金の透明化も重視。随伴車の料金メーターだと、目が行き届かないために不正を疑う顧客

がいるという。そこで、顧客車のトリップメーターを「0」にリセットし、走行距離を計測。目的地に到着後、携行の料金表と照らし合わせて精算する。「うちでは料金のトラブルは一切ない」

GPS配車システムは自社製。随伴車に設置するスマートフォン・タブレット端末に配車指示し、日報は自動で作成できるようだ。他社に月2万5000円で貸し出している。今春以降のバージョンアップで、事務管理機能を強化する。

加々美社長は全国運輸代行協会の理事を務め、業界の適正化に力を注ぐ。「人の命と車という財産を守る意味で、運輸代行業はバスやタクシーよりも任務が重い」が持論。「事業としてしっかりできる人だけが営めるよう、参入・台数規制が必要」と訴える。